

作成日	令和 年 月 日
評価日	令和 年 月 日

【多文化版】個別の教育支援計画 〔青森県立 高等学校〕

氏 名				性 別		国籍	
フリガナ				生年月日	年 月 日 () 歳		
学校での表記				母 語 使 用 言 語			
住 所				連 絡 先			
	続 柄	氏 名	国 籍	本人との言語	日本語使用状況・備考		
家 族 構 成	父						
	母						
	弟						
保護者への通知	☐ 日本語の通知文書で対応可能 ☐ やさしい日本語で作成した通知が必要 ☐ フリガナつきの通知文書が必要 ☐ 大切な連絡等は翻訳文書が必要						
保護者面談 説 明 会 等	☐ 日本語で可能 ☐ やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 ☐ 通訳が必要（隣人・野村さんが対応可能な場合あり）						
来 日 時 期	年 月 日		滞日予定				
将来の進路希望			在 留 資 格				
学習歴							
年齢	学年	居住国・市町村	就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況	担任	支援員	支援時間	備 考
4-5							
5-6							
6-7							
7-8							
8-9							
9-10							
10-11							
11-12							
12-13							
13-14							
14-15							
15-16							
16-17							
17-18							
18-19							
19-20							
20-21							

生活の様子	得意なこと 好きなこと				
	苦手なこと				
本人・保護者の学校生活や進路に関する希望	本 人				
	保 護 者				
長期目標 (期 間 : 年)					
言語・文化的配慮	学校生活				
	日本語学習・教科学習				
	母語・母文化の尊重				
支援体制 関係機関との連携					
日本語のプログラム フ ェ ー ズ	フ ェ ー ズ	1 (年月)	2 (年月)	3 (年 月)	4 (年 月)
	支 援 時 間	週 時間	週 時間	週 時間	週 時間
	支 援 形 態	個別対応+実技は教室	個別対応+教室		
「ことばの力のものさし」による アセスメント	実施日 (実施者)	包括的なことばの力 本人の現状／年齢の目標	日本語固有の力 本人の現状／年齢の目標	アセスメントを踏まえた指導の方向性 (ほか)	
	年 月 日 ()	/	/		
	年 月 日 ()	/	/		
	年 月 日 ()	/	/		
	年 月 日 ()	/	/		
備 考					
作 成 者	担当教員： 多文化スーパーバイザー： 支援員：				

言語・文化的配慮の観点・項目と具体例

観点（１）学校生活上の配慮

- （１）－１　日本語を母語としないことによる学校生活上の困難への配慮
 - （１）－１－１　行動のめやすになる表示などのユニバーサルデザイン
 - 例）ピクトグラム等　特に災害時の対応　サバイバル日本語の修得支援
 - （１）－１－２　児童生徒同士のコミュニケーションをとりやすくする配慮
 - 例）翻訳機　電子辞書等
- （１）－２　母文化が異なるための学校生活上の困難への配慮
 - （１）－２－１　コミュニケーション上の配慮
 - 例）身体接触　学校文化（清掃、持ち物、部活動、行事、行動規範等）
 - 例）ものの貸し借り、けんかななどをめぐる文化によるコミュニケーションの違い
 - （１）－２－２　施設・設備面での配慮
 - 例）給食　トイレ　宗教（お祈りの場所等）

観点（２）日本語及び教科学習上の配慮

- （２）－１　学習内容の変更・調整
 - （２）－１－１　教育課程の違いへの配慮
 - 例）学んだことのない科目や学習内容への配慮
 - （２）－１－２　母語・母文化の違いから生じる困難度が高い科目の取り出し指導
 - 例）国語科、社会科、家庭科等を別室で指導
- （２）－２　教材や方法上の配慮
 - （２）－２－１　教材の工夫
 - 例）実物・模型・絵・写真・図の活用　学習の流れがわかるワークシートの活用
 - （２）－２－２　体験的な活動の導入
 - 例）実験やフィールドワーク
 - （２）－２－３　デジタルツールの活用
 - 例）翻訳機、タブレットの活用
 - （２）－２－４　やさしい日本語による説明
 - 例）その授業内の重要事項をやさしい日本語でゆっくり説明する

観点（３）母語・母文化の尊重と多文化共生の取組

- （３）－１　本人の心理面を考慮した母語や母文化の尊重
 - 例）日常的な尊重による、自尊心やアイデンティティ、保護者との関係への配慮
- （３）－２　周囲との間での互いの文化の理解と多文化共生に向けた取組
 - 例）社会科・家庭科・芸術科、総合的な学習の時間、行事等での相互理解の機会
- （３）－３　国による教育制度等の違いに配慮した取組
 - 例）日本の高校への進学に向けた母語での情報提供

支援体制　関係機関との連携

- 校内支援体制　ケース会議を設定し、定期的に個別の支援計画を見直し、協働して支援にあたる　等（担任、学年主任・教務主任・養護教諭等の関係職員、管理職、支援員、スーパーバイザー等）
- 関係機関との連携　所管教育委員会　弘前大学多文化リソースルーム　地域のNPOや国際交流協会等との連携の具体的なあり方

母語・母文化の尊重のために

【基本的な考え方】

日本の学校では当たり前と以为っていても、相手の母文化では当たり前でないことがたくさんあります。次の2つの姿勢を基本として対応していきましょう。

- ①　日本の学校教育の考え方や指導方針について、理由や背景も含めて丁寧に説明し、理解してもらう。
- ②　宗教など相手にとって大切な価値観を尊重し、受け入れる。

配慮を必要とする可能性のある言語・文化的な違いの例

トイレ ・ジェンダーフリー（みんなのトイレ等）	行事への参加 ・児童生徒は参加することになっている（国によっては任意や修学旅行など宿泊を伴う活動がない／教育活動に入らない） ・保護者の参加の有無（PTA、運動会、授業参観など）
宗教上の習慣 ・礼拝室 ・ウドゥ（シャワーコーナー。お祈り前に身を清めなければならないため） ・モスクへ行く（金曜午後）	身だしなみ ・服装、化粧、香水、アクセサリ等（宗教的なものもある　例　ピアス（お守り））
食事への配慮 ・宗教上禁止または嫌悪されている食材 ・ラマダン（断食期間）日没後は食べられる ・弁当 - 昼食は帰宅して食べる、 - 冷たい食事を食べない文化、 「日本の弁当」のイメージと違うもの ・食器を持ち上げて食べない文化	部活動（特に体育系） ・中・韓では、部活動はほとんどない ・米では、スポーツ系の部活動は学校ではなくエリート（アスリート）養成
宗教による禁止または嫌悪事項 ・歌、踊り、楽器、自画像を描く、水泳など ・左手を使うことは避ける（ヒンドゥー教） ・頭をなでる	未就学の可能性がある教科 ・国　全般、書写 ・社　地域学習、日本の歴史 ・理　植物の栽培、実験 ・算　九九、計算方法の違い ・音　リコーダー、鍵盤ハーモニカ ・体　跳び箱、マット運動
遅刻・欠席 ・欠席するときに連絡をしない ・家事や下の子の面倒を見ることが優先されるため学校を休む／遅刻する	ジェスチャーの違い ・OKサイン（親指と人差し指で○を作る）→国によっては「お金」の意味 ・おいでおいでの手招き→国によっては「あっち行け」の意味
教具・教材 ・教材・教具は購入する必要がある ・教育は無償の国もある ・制服（ある場合）、体操服、ジャージ、内履き、〇〇袋、〇〇セットなど	採点方法の違い ・赤ペンを使わない ・正答に○→正答に✔